

TOSHIBA

Leading Innovation >>>

FUTURE DESIGN

vol. **45**

安全で快適なエレベーターの
未来をデザインする

2 0 1 6



特集 ● 交通と都市の未来形

第9回

未来エレベーターコンテスト

テーマ「乗って楽しい

エレベーター」



東芝エレベーター株式会社

TOSHIBA ELEVATOR AND BUILDING SYSTEMS CORPORATION

FUTURE DESIGN

vol. **45** 安全で快適なエレベーターの
未来をデザインする
2016

(アンケートにご協力ください)

『FUTURE DESIGN』vol.45に対するご感想をお寄せください。瀬戸内のしまなみ海道の大三島にある七曜工房が手づくりした、オリジナルデザインの箸置きと皿(13×13cm)4枚セットを抽選で10名様にお送りします。箸置きは、今年の干支であるサルをみかんの幹からくり抜いて製作したもので、パズルやインテリアとしてもお使いいただけます。また、皿の材料には木目の美しさを楽しめるタモが使われ、漆系の塗料のカシューで仕上げられています。なお、箸と皿の上に載っている卵焼きはイメージです。



- 応募方法
同封のはがきまたはFAX用紙、E-mailでご意見をお送りください。
- 締め切り
2016年5月31日到着分まで有効。

東芝エレベータ株式会社 FUTURE DESIGN

vol.45 2016

2016年2月29日発行 発行 東芝エレベータ株式会社 広報室
〒212-8585 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地34

電話 (044)331-7001

URL <http://www.toshiba-elevator.co.jp>

E-mail elevator@po.toshiba.co.jp

制作 有限会社イー・クラフト+有限公司ベル・プロダクション デザイン 手塚みゆき
印刷会社 株式会社メディア グラフィックス

CONTENTS

- 03-09 特集●交通と都市の未来形
第9回
未来エレベーターコンテスト
- 10-13 ユーザー訪問●乗り心地、いかがですか?
vol.14
日清食品ホールディングス 東京本社ビル
- 14-15 連載●お江戸の楽しい歩き方 第2回
国分寺周辺
- 16-17 連載●私の忘れられない本・映画・音楽 第11回
篠原ともえさん
- 18-19 連載●がんばる地方都市 第9回
愛媛県喜多郡内子町
- 20 連載●おもて菓子 第5回
みかんの花道

【表紙解説】



自転車普及率で世界一を誇り、自転車専用のインフラ整備も進んでいるオランダ。そのオランダの阿姆斯特ダムを中心とする7都市に、自転車専用高速エレベーターを導入しようと提案するのが、「第9回 未来エレベーターコンテスト」最優秀受賞作品です。この作品は、テーマに対する訴求力、アイデア、ビジュアルなど、さまざまな項目に対して審査員から高く評価されました。今号の表紙は、この作品の美しいメインビジュアルがモチーフになっています。



特集 ● 交通と都市の未来形

第9回 未来エレベーターコンテスト

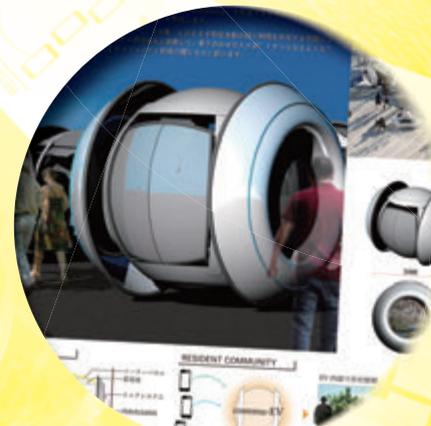
未来のエレベーター・エスカレーターの形を学生から募る「未来エレベーターコンテスト」は、2015年で9回目を迎えた。今回のコンテストでは、今から10年後を想定し、これまで誰も見たことがないような「乗って楽しいエレベーター」のアイデアを募集した。誌上では、審査員に提案内容を評価された受賞作品を紹介する。

テーマ

「乗って楽しいエレベーター」

※受賞作品に関する詳しい解説は、以下のWebページでご覧いただけます。

<http://www.toshiba-elevator.co.jp/elv/newsnavi/volumes/contest/2015prize.html>



藤田善昭 ふじた よしあき
東芝エレベーター株式会社 常務
統括技師長。1959年生まれ。
東京大学工学部卒業。東芝
エレベーター株式会社 技術本
部開発部長、エレベーター
担当技師長、技術本部長を
経て、現在に至る。

谷口守氏 たぐち まもる
筑波大学システム情報系社会
工学域教授。京都大学工学部
助手、カリフォルニア大学
客員研究員、岡山大学環境
理工学部教授などを経て、
2009年より現職。著書
に「ありふれたまじかご図鑑」
(共著、技報堂出版)など。

今村創平氏 いまむら そうへい
建築家、千葉工業大学工学部
准教授、アトリエ・イマム主宰。
1989年早稲田大学理工学
部建築学科卒業。主な建築
作品に「富士かたは幼稚園」
など。著書は「現代都市理
論講義」(オーム社)など。訳
書として「20世紀建築の発明」
(鹿島出版会)。

KIKI氏 きき
モデル。武蔵野美術大学造形
学部建築学科卒業。雑誌の連載
執筆、広告・TV出演など、
多方面で活躍しており、
近年は芸術祭に作家として
参加するなど活動の領
域を広げている。著書に「山
が大好きになる練習帖」(雷鳥
社)など。

小川克彦氏 おがわかつひこ
慶應義塾大学環境情報学部教授。
1978年、日本電信電話株式
会社に入社。NTTサイバーン
リユニオン研究所所長を
経て、2007年より現職。
著書に「つながり進化論」
(中公新書)、「デジタルな生活」
(NTT出版)など。



審査員の皆さん

Prize-
Winning
Works

最優秀賞

ハイ・ベロシティー

High Velocity

池田 篤士さん いけだ・あつし
弓場 大夢さん ゆみば・ひろむ
千葉大学

解作
説品

自転車の持つ可能性や楽しさを拡張できる自転車専用高速エレベーター、それが「High Velocity」である。このエレベーターが導入されるのは、自転車普及率が高く、自転車インフラの整備も進んでいるオランダのアムステルダムを中心とする7都市である。

「High Velocity」は、地上約5mの高さに設置された高速自動運転レーンと、自転車を運ぶ役割を持つ自動走行モビリティユニットで構成され、オランダ各地に張り巡らされた自転車専用道路から進入する。

このモビリティユニットは自転車の前輪が載ると作動し、乗客はそのまま時速25〜30kmで運ばれていく。自転車の体重移動に反応してモビリティユニットが自動的にバランスをとってくれるので、自転車が転倒する心配はない。アムステルダム市街地からスキポール空港までの道のりなら約30分で運んでくれるだろう。

レーンを降りたい時はハンドルを曲げてサイドのインターチェンジに進めばよい。その先は再び自転車専用道路につながる。

推進方法には、超伝導体と永久磁石の作用でモビリティユニットを浮遊状態にして運ぶ電磁誘導システムを採用する。また、それを運用するための電力の大部分は、オランダの強風を活かして、支柱に設けられたダリウス・サボニウス風車による風力発電によって賄われる。



池田さん

弓場さん

**受賞者
コメント**

私たちは千葉大学工学部
デザイン学科でデザインを学
ぶ仲間です。2人とも現在学部

の4年生で、それぞれ専門分野が異なります。
今回はお互いの専門を活かして何かできな
いかと考え、このコンテストに参加しまし
た。この提案では10年後の世界の都市におけ
る環境変化とその対応策を考えてみました。
その際、私たちに楽しみを提供してくれる
エコな乗り物として自転車に着目しました。
私たちは自転車の可能性をさらに拡張する
ことで、環境問題にアプローチできないかと
考えました。そして何より、乗って楽しいも
のであることを念頭に置きながら取り組ん
だ結果、このような提案に結実しました。



High Velo-city

自転車の持つ楽しさを拡張する、自転車専用高速エレベーター

自転車は小回りの効く優秀な乗り物であると同時に、移動に楽しさを与えてくれる乗り物として長年人々の生活に寄り添ってきた。近年、環境への配慮やその利便性ゆえに世界中の都市で自転車への関心が高まってきている。世界各國の都市内ではレンタサイクルが流行し、海外ではサイクリングロードが充実している。また、現在欧州では都市内と郊外を繋ぐ自転車専用の大規模な高速道路網が計画されている。2025年にその計画はさらに発展し、都市内と郊外、さらには都市と都市を繋ぐ自転車専用の高速自動運転道路網にまでおよびよう。High Velo-cityはその計画を実現し、自転車の持つ楽しさを拡張するための自転車専用高速エレベーターである。

① 自転車大国オランダ



High Velo-cityを導入する都市としてオランダのアムステルダムを中心とするアツの都市を想定した。入よりも自転車の方が多くと書えるほど自転車普及率が高く、自転車専用レーンなど自転車インフラの整備も進んでおり High Velo-city導入に最適な都市である。

② 高速自動走行モビリティユニットとレーン構造



審査員 講評

今村 創平氏

エネルギー、交通、技術など、さまざまな今日の課題や成果が、見事なグラフィックのもとにまとめられています。東京やロンドンなど、別の都市に活用可能なことも、この提案の優れた点といえるでしょう。

谷口 守氏

発想の豊かさを活かして丁寧につくり込まれており、見ているだけで楽しくなるユニークな作品です。デザイン性にも優れており、未来の自転車社会を議論するうえで今までにない新たな可能性を提示しています。

小川 克彦氏

高速で走行していても、風で倒れないし、安心して走行できます。しかも、そのエネルギーは環境に優しく、自転車にじみみのない私でもちよつと使ってみたくなる提案です、すばらしいと思います。

KIKI氏

エンジンが付いていない乗り物で高速道路を移動するのは爽快ですし、憧れでもあります。これまで人と自転車と車がすべて行き交っていた一般道の交通が、よりスムーズになるのではないかと期待できます。

藤田 善昭

自転車大国のオランダに自転車用の自動高速レーンを張り巡らせるというアイデアは、面白く思いました。描かれているビジュアルも大変すばらしく、この作品が高い評価を得たのは当然であると考へます。



Prize-
Winning
Works

優秀賞

受賞者 コメント

僕たちは東京
大学大学院で機械
工学を専攻しています。
立案時にはまず「楽しいとは何
か」を3人で話し合いました。
その過程で、モノづくりが楽し
いから機械工学を専攻したこと
に改めて気づきました。このコ
ンテストの過去の作品を見ると、
建築系の視点による作品が多か
ったので、僕たちの強みである
機械系の視点で提案できたら面
白いと思い、江戸時代からく
り人形にヒントを得て、この提
案を考えました。

からくり

karakuri

長尾 浩志さん ながお・ひろし
宮内 健太さん みやうち・けんた
金築 一平さん かねつき・いっぺい
東京大学大学院



長尾さん

宮内さん

金築さん

特急
ひおかげ

からくり
エレベーター

解作 説品

夏目漱石の小説『坊っちゃん』の舞台として知られる愛媛県松山市。その玄関口のJR松山駅前に2025年、坊っちゃんをモデルにした、高さ約10mの巨大エレベーター「karakuri」が登場する。これはタイトルのとおりからくり人形の技術を応用してつくられる。電気を使わず、位置エネルギーを上手に利用して昇降できるため、エゴ時代にふさわしいエレベーターでもある。

電車から降りた乗客がお盆の上に乗ると、10人乗りのエレベーターは2分かけてゆっくりと降下する。その間、乗客は添乗員による松山の魅力などの説明を聞きながら、記念撮影なども楽しむことができる。乗客がお盆から降りると、おもりを使った仕掛けによって、お盆は再び上昇する。「karakuri」は、観光客の増加、飲食店、宿泊施設などの需用増加をもたらす、観光業の雇用促進にも役立つだろう。



Prize-
Winning
Works

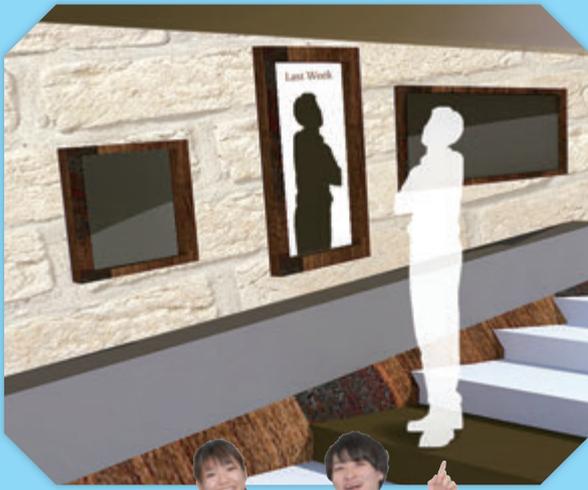
審査員賞

リメンバー・ユー

Remember You

あなたを覚えるエスカレーター

秋山 大暉さん あきやま・たいき
小田倉 早紀さん おだくら・さき
首都大学東京

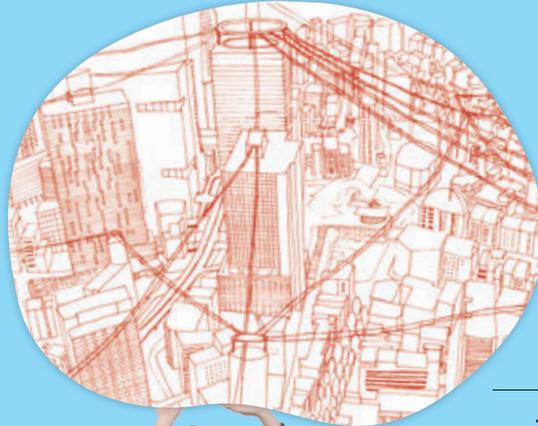


デザインを
担当しました。

文章・写真を
担当しました。



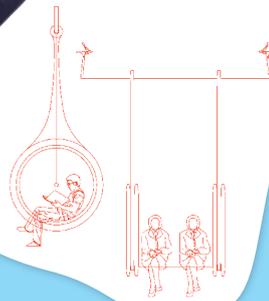
【作品解説】 エスカレーターに乗っている間、人々は通常、退屈な時間を過ごしている。「Remember You」は、利用者の外見データに乗るたびに蓄積し、利用者がエスカレーターに乗ると、壁面モニターにスライド形式で過去の外見データを表示する。これにより利用者は、エスカレーター利用時に昔の自分の姿を見て楽しめるようになる。モニター用の電力は建物の屋上に設置されたソーラーパネルによる太陽光発電で供給される。



シブヤヤマ ロープウェイ

吉川 学志さん きっかわ・たかし
首都大学東京大学院

渋谷のよさを残すため
に考えました。



【作品解説】 「シブヤヤマロープウェイ」は、渋谷の空中にロープウェイを張り巡らし、既存のストリートとは別の移動手段を設けることによって、渋谷の坂道文化を強化しようという提案である。ロープウェイは、2本のロープを用いるフニテル式(※)を採用、2つの滑車が回転することで運転される。人は蛇腹式に折り畳めるシートに乗って移動するが、2本の可動式キャッチャーで車輪を固定することで、車、自転車、歩行補助車など幅広い乗物を運ぶことができる。

※2本のロープの間隔がゴンドラの幅よりも広い方式。

コミュ・イーブイ

commu-EV

～お節的なエレベーターがつくるまち～

大川 泰毅さん おおかわ・たいき
星野 奈月さん ほしの・なつき
筑波大学大学院

【作品解説】 「commu-EV」は住民同士のつながりを促す目的で考案された。母親に抱かれる赤ん坊をイメージしてデザインしているため、利用者はリラックスした気分で乗ることができる。建物内部を垂直移動する際、利用者情報を各自のスマートフォンから抽出して内部にある液晶画面に投影し、乗り合わせた人たちの会話のきっかけをつくる。また、水平移動用の車輪を使って建物の外に飛び出せば、オープンカフェ、映画館などにも活用できる。



お節的な“おばちゃん”
みたいな乗り物です。

KIKIさんのファン
なので応募しました。



審査会 Board of Review

最優秀賞は
スムーズに決定

審査会は、全応募作品の中から少数の作品に絞り込む一次審査と、各審査員が気になる作品を推す理由を述べ、活発な意見交換を行う二次審査に分かれる。二次審査では最終的に、各自の持ち点を使って気になる作品に点数を入れ、この段階で作品数は上位5点に絞られる。ここから、最優秀賞、優秀賞を決めるのだが、今回は「High Velocity」が圧倒的に高得点で、文句なく最優秀賞に決まった。優秀賞は「karakuri」と「Remember you」の間で争われ、実現の可能性、機械系の作品として計算された緻密さがあるという点で、前者に軍配が上がった。

「楽しい」がつくりだす 未来エレベーター

未来エレベーターコンテストの審査会は2015年10月30日、東芝エレベーター本社が入るビルの一室で行われた。その審査の様々と、審査終了後の座談会の様子をお伝えしよう。

社会的制約に束縛されず、
自由なアイデアが出せる
コンテストです。



表彰式 Awarding Ceremony

2015年12月4日、東芝府中事業所で未来エレベーターコンテストの表彰式が開催された。前回に続いて行われた受賞者によるプレゼンテーションは、いずれも学生とは思えないほど堂に入ったものだった。



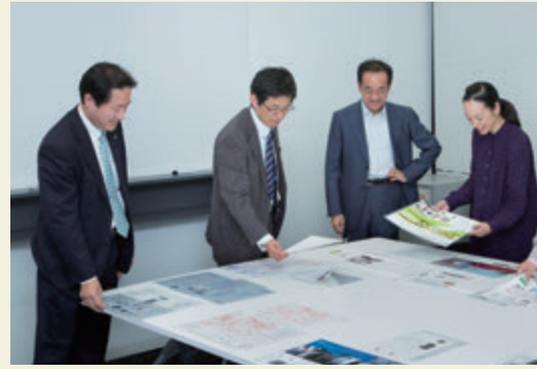
受賞者の皆さん、おめでとう！

実現性の高い作品が
多数応募

表彰式は、東芝エレベーター常務統括技師長の藤田善昭によるスピーチで始まった。藤田はまず、今回のテーマを「乗って楽しいエレベーター」に設定した理由について、エレベーターに乗っている気まずい時間の解消手段を学生の皆さんにも考えてもらいたかったからと説明した。従来は20年後、30年後の未来を想定年代に設定することが多かったのに対して、今回は、10年後という近未来における「乗って楽しいエレベーター」を募集したことも相まって、リアリティがあり、実現性の高い作品が多く集まり、その点で大変喜ばしいと述べた。

スピーチのあとには、藤田から祝福の言葉を添えて、受賞者一人ひとりに賞状、トロフィー、賞金が手渡された。





リアリティのある作品が増加

審査会の終了後には、今回集まった作品全体に関して議論する座談会が実施された。

その場では、毎回新しいアイデアが寄せられるのがこのコンテストの醍醐味という今村氏の発言や、教育効果の高い、ほかに類のないユニークな試みという谷口氏の発言などが飛び出した。また、小川氏はアイデアを考える際には観察が重要で、多様な見方が大切であると述べ、KIKI氏は、得意分野を活かして共同で応募すれば文系の人にもチャンスはあるはずと発言した。藤田は、今回のテーマ設定が奏功したこともあって、非常にリアリティのある作品が多く登場したと述べるなど、それぞれの立場から、今後に向けての有意義な意見が提起された。

作品から移動体の境界領域がなくなりつつあると感じました。

今回のテーマ設定はとても時宜にかなっていると思いました。

さまざまな大学、学科の学生が考えた発想の豊かさに驚きました。

テーマ次第で今後もいろいろな展開が期待できそうですね。



作品を解説する受賞者

堂々のプレゼンテーション

次いで各作品のプレゼンテーションが行われたが、その発表は人を惹きつけるのに十分なものであった。例えば、JR松山駅前への設置を想定した巨大エレベーター「karakuri」の応募者は、松山市にも提案してみたいと自信を示し、「Remember You」では、プレゼンテーションに動画を取り込む工夫が施され、参加した東芝エレベータ社員も聴き入っていた。

質疑応答の時間では、例えば「High Velocity」に対して、時速25〜30kmでは遅すぎないかという疑問が提起され、現在のロードレース用バイクの平均速度を参考にしたこと、一般観光客などの使用も考えるところこれ以上の速度では楽しさより恐怖感が先に立つのを懸念したことなど、活発な論議がなされた。その後、各審査員が作品講評をスピーチし、表彰式は盛況のうちに終了した。



作品講評をスピーチするKIKI氏

日清食品ホールディングス 東京本社ビル

お客様や従業員が元気をもらえる
エレベーターの意匠に改修

世界初のインスタントラーメンとカップ麺を開発した先駆者であり、今も食の最先端を走り続けている日清食品ホールディングス。そのシンボルともいえる東京本社ビルは1988年に竣工し、「日清パワーステーション」というライブハウスを開設して若者たちの人気スポットとなった。今回、この建物の「顔」ともいえるエレベーターの意匠改修を実施した経緯を伺った。

data

日清食品ホールディングス東京本社ビル

住所：東京都新宿区新宿6-28-1

施設：地下3階 地上11階

塔屋1階建て

延床面積10,986㎡

竣工1988年

概要：日清食品東京本社ビルとして竣工。それと同時に、地下2階に「日清パワーステーション」というライブハウスを開設し、若者に人気のスポットになった。残念ながら1998年に閉鎖されたが、今も惜しむ声が多い。2008年に持株会社制に移行し、現在は日清食品ホールディングス東京本社社の機能も担う。



interview



日清食品ホールディングス株式会社
総務部 課長代行
藤澤 潤之氏
ふじさわ・じゅんじ

日清食品ホールディングス株式会社
総務部 主事
松代 創一郎氏
まつしろ・しょういちろう

乗り心地、いかがですか？

安藤社長が愛する
東京本社ビル

日清食品の創業者である安藤百福氏が1958年に世界初のインスタントラーメンである「チキンラーメン」を發明。さらに、1971年に世界初のカップ麺「カップヌードル」を生み出したことで、インスタントラーメンは今や世界で年間1000億食も消費される食品となった。インスタントラーメンがこれだけ世界に普及するなかで、先駆者の日清食品はこれで満足することなく次々と新商品を開発、現在も食の最先端を切り開いている。

こうした同社のシンボルが新宿にある東京本社ビルである。2008年に持株会社制に移行し、日清食品ホールディングスとなると、大阪本社との管理部門などが東京本社に移り、日清食品グループの中核を担うこととなった。

東京本社ビルは、日清食品ホールディングス株式会社代表取締役社長・CEOの安藤宏基氏が日清食品代表取締役社長に就任して3年目の1988年に竣工した建物で、このほか愛着が深いという。

同社総務部主事の松代創一郎氏はこう語る。

「社長にとってこのビルは製品のヘビーユーザーである若者が集う街・新宿にあり、強い思い入れを持っています。竣工してから28年経過しましたが、これからも若者のように生き生きとした建物であってほしいと思います」

かご室内を明るくするために
意匠を改修

生き生きとした建物であり続けるうえで、その「顔」ともいえるエレベーターは重要だ。東京本社ビルにはエレベーターが5台あり、うち2台は来客用、2台は従業員用、1台は人荷用である。

2015年9月、主に従業員が使用する2台の意匠改修を行った。

日清食品グループが所有するビルの運営管理を担当する同社総務部 課長代行の藤澤潤之氏はこう語る。

「これまでのエレベーターは高級感がありました。しかし、少し暗めだったので、もう少し明るくしたいという意向もあり、意匠改修を決断しました」

松代氏は「改修したエレベーターは、従業員だけでなくお客様も利用なされるので、



▲ビル1Fのエレベーター乗り場。ステンレス製鏡やLED天井照明の効果で、かご室内が広く、明るく、天井も高く見える。

「本来は制御部分を含めてリニューアルしたかったのですが、食品会社である当社は、365日従業員が出勤し

ない。「本来は制御部分を含めてリニューアルしたかったのですが、食品会社である当社は、365日従業員が出勤し

スリット状の鏡で かご室内を広く見せる

皆さんの気持ちよくお迎えしたい。そこで、建物の『顔』であるエレベーターも元気の出る意匠にしたかったのです」と語る。

「本来は制御部分を含めてリニューアルしたかったのですが、食品会社である当社は、365日従業員が出勤し

ビル地下には大きなホールがある。かつては、有名なアーティストのライブを楽しめる、「日清パワーステーション」と呼ばれる人気スポットだった。この地下と最上階の11階をつなぐのは、2台のエレベーターしかない。

従来のかご室は、壁面の化粧シートが暗色と金色で重厚感のあるデザインであった。天井には豪華な細工が施されていたものの、間接照明だったこともあり、照度が不足し、暗く感じられた。

そこで、化粧シートをメタリックシルバーにして、背面の壁に幅10cmほどのスリット状のステンレス製鏡2枚を取り付けた。また、天井もLEDにシエードを施した照明に変更。以前に比べて、かご室は光あふれる空間に変わった。



▲エレベーターのかご室内。正面に見えるのが、背面の壁に設置された、スリット状のステンレス製鏡。

従業員のいない休日夜間に 集中工事

化粧シートや天井照明の意匠などは、東芝エレベータのさまざまな提案のなかから慎重に検討して決めた。色見本や写真で確認しただけでなく、実際に実物も見学したという。かご室内を広く見せるためのスリット状の鏡も東芝エレベータの提

案をもとに導入を決めた。仕様が固まったら、次に課題となったのは工事である。藤澤氏はその苦勞をこう語る。

「各階の掲示板やドアの内側に工事の告知文を貼り出しました。当初は短時間とめるのは困るといふ声も出ましたが、何とか理解を得ました。実際の工事は従業員

たので、問題なく完了するこ
とができました」

意匠改修についての 高い評価が続出

こうした苦勞の甲斐があり、意匠改修の評判は予想以上によかった。松代氏は、「鏡を入れるというアイデアは我々では思いつかず、さすがプロだと思いました。以前

よりかご室内が広く感じられ
ますし、元氣をもらえる意
匠になったと思います」と
評価する。

かご室内が広く見えるのは、鏡だけでなく、天井照明がすっきりして、空間に広がりが出た点も大きい。「明るくて高級感もあり、ちょうどいいバランスになりました。社長も『広くて、きれいになった』と褒めてくれました。海外から

のお客様や社外取締
役などがいらした
際、社長が意匠改修
したことを自慢げに
話しているのを見
て、うれしくなりま
した」と藤澤氏は笑
う。

「従業員からも評
価する声が多く寄
せられています」と
松代氏はいう。

「総務の仕事は
100点満点が当
たり前で、少し問題
があるとすぐに不満
の声が寄せられま
す。しかし今回は、
それがありません
でした。意匠の好み
は人によって違いま
すが、多数の社員か
ら評価されるのは
誇れることです」

今後はリニューアルと セキュリティ強化を検討

定期的な保守点検を行っ
ていても、エレベーターの
部品は経年劣化を免れない。
東京本社ビルも竣工して28
年が経過し、今後、リニュー
アルが必要となる。

「これから1〜2年かけて
準備し、従業員に迷惑がかか
らないようにリニューアル
を進めたいと思いますが、そ
の間は保守点検が重要にな
ります。現在、東芝エレベ
ータの保守担当の方が、出社人
数の少ない土日に対応して
くれているので助かってい
ます。何かトラブルが発生
しても迅速に対応してくれ
ますし、ありがたいですね」と
藤澤氏。

松代氏は今後の課題とし
てセキュリティの強化も指
摘する。

「従業員の通用口にはも
ちろん守衛がいます。しか
し、従業員数が増加し、現在
の対応では限界があります。
今後は、各従業員の勤務フ
ロアに応じてエレベーター
の開閉を制御できるセキュ
リティ機能を導入したいと
思っています」

日清食品グループの進化
とともに、東京本社ビルは
今後も進化し続ける。



▲エレベーターのかご室内の扉側。

早くから環境保全に 配慮した企業活動を展開

日清食品グループは、環境保全に注力するために早くから「環境委員会」を設置している。委員長は安藤社長が務め、グループの環境方針の制定や環境目標・活動の審議などを行っている。

2000年には環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証を直轄3工場で取得し、以来グループ各社への導入を推進している。2013年には環境活動に関する情報共有などを目的に「日清食品グループ環境推進委員会」を新たに設置、グループ各社の環境管理者が集まり、会合を開いている。

東京本社ビルでも、廃棄物の削減、照明のLED化、トイレへの人感センサーの設置など細かい努力を積み重ねている。エレベーターの利用を減らすために、2〜3階分は階段を利用する「2アップ3ダウン」運動も実施中だ。



環境マネジメントシステムの認証書と付属書

メーカーの立場から

営業の役割



東芝エレベータ
東京支社
フィールド営業第二部
営業第二担当
主任
三平 佳子
みつひら・よしこ



東芝エレベータ
東京支社 新宿支店
営業グループ
課長代理
塚田 辰徳
つかだ・たつなり

全社協力でお客様要望を具現

1994年入社の三平佳子は長らく本社部門に勤めていたが、「実際に営業現場に出て、お客様と対面したい」と希望して、2014年6月に新宿支店に着任。最初に担当したのが日清食品ホールディングスだった。

「当初のお客様からのご要望はかご室内の化粧シートの交換で、前任者がすでに見積もりを提出していました。しかし、エレベーターが導入後30年近く経過することから、リニューアルも含めてご提案しようとしたのです」と三平は語る。

もちろん、日清食品ホールディングスとしてもリニューアルは念頭にあった。しかし、「エレベーターを長期間停止させる余裕はないため、当面は化粧シートの交換にとどめ、モダンで明るいイメージにしてほしい」と要望があった。

三平は東京本社ビルのエレベーターを見て天井も気になっていた。凝った高級なつくりだが、間接照明のため、全体として重厚ではあるが、暗いイメージになっていたか

らだ。

「近年はシンプルな天井照明のご採用が多いとお伝えしたら、実際に当社の本社ビルまで見学に来ていただけました」

こうして、化粧シートだけでなく、天井照明も交換することになった。また、かご室内をより明るく、広く見せるために、スリット状のステンレス製鏡2枚を入れることも提案。鏡のサイズや表面仕上げ、色などについて何度もやり取りして、お客様のイメージに合致した意匠空間が仕上がった。

この時点で三平は営業の支援を行うフィールド営業部に異動することになり、新宿支店の塚田辰徳が後任となった。

「東京本社ビルには多くの方がお越しになるので、その『顔』になるエレベーターを担当するのは緊張しました」という塚田は、その後の工事を問題なく進行させるために神経を使った。

工事は、2015年9月のシルバーウィーク中の6日間と決まった。通常は8〜9日間かかるところを6日間で、しかも夜10時から朝7

時の間に施工しなければならない。遅れることは許されなかった。そこで塚田は、設計や工場、工事の担当者と相談して綿密な計画を立て、日清食品ホールディングス側にも協力を仰いだ。工事期間中は、ほぼ毎日立ち会って微調整を行った。

「天井工事の場合、作業をしない時間帯もエレベーターを止めなければなりませんから、なるべく短時間で済むように社内調整しました」

こうした塚田の努力もあって、工事は予定どおり終了し、無事に引き渡すことができた。

三平は今回の仕事を振り返り、「お客様から『当社は3分間で結果を出すことが求められる。東芝エレベータも一緒にやってほしい』というお話があり、早くきっちりした結果を出す対応をするように頑張りました」と語る。塚田も「お客様に満足していただき、達成感がありました」という。

営業2人の連携プレーがうまく機能したようだ。

施工の役割



東芝エレベータ
東京支社 整備部
整備グループ
チーフフィールド
エンジニア
清家 義己
せいけい・よしみ

限られた時間のなかで搬入計画を立案

工事を管理した清家義己にとって、今回の仕事は大型工事だった。

「隣接号機停止可能が夜10時から朝7時までという作業時間と当月納期は厳守。しかも資材の大きさと通路高さに余裕がなく、搬入計画を立てるのが大変でした」と語る。

ビル警備の関係上、夜10時を過ぎると出入りが制限され、短時間で効率よく資材を搬入する必要があった。なかでも天井照明は、重量が約200kgもあるため、簡単に運べず、苦勞したという。

「お客様に近くに材料置き場を確保していただいただけ、作業性が向上して感謝しています。無事に納品できた時には、お客様から『明るくなった。ありがとう』と声をかけていただいて、うれしかったです」と改めてやり甲斐を感じている。

保守の役割



東芝エレベータ
東京支社 新宿支店
東新宿営業所
シニアフィールド
エンジニア
柴田 準一
しばた・じゅんいち

食品会社なので清潔さを何よりも重視

日清食品ホールディングス東京本社ビルの保守担当として柴田準一が気を使うことは清潔さだ。

「お客様は食品会社なので清潔さを大切にしています。作業服が汚れている時は着替えてから訪問するようにしています」

現在、東京本社ビルのエレベーターに対しては部品交換も含めてトータルに保守している。部品も適切に交換できるように、社内の担当者と連携しながら迅速に供給できる体制を整えてきた。

「お客様のエレベーターはかなり珍しい機種です。部品の確保はもちろんのこと、部下に保守方法を指導しています」と語る柴田からは仕事への強い責任感が感じられた。

お江戸の 楽しい 歩き方

第2回

国分寺周辺



門人 & 文 師 匠

地図研究家
芳賀啓さん

タレント／歴史作家
堀口茉純さん
(愛称：ほーりー)

はが・ひらく・1949年生まれ。東京の古地図や地誌の研究で、東京経済大学客員教授。テレビ朝日「タモリ倶楽部」などのテレビ番組にも出演。主な著書に『江戸の崖』東京の崖（講談社）『古地図で読み解く江戸東京地形の謎』（二見書房）など。

ほりぐち・ますみ・1983年生まれ。2008年に江戸文化歴史検定一級を最年少で取得し、「江戸」に詳しくすぎるタレント堀口茉純（お江戸のアイドル）として知られる。主な著書に『TOKUGAWA15』（章思社）、『UKIYO E17』（中経出版）など。

本日の
お題

姿見の池の水はどこから？
古代官道はなぜ埋もれたの？
お鷹の道はお鷹さんの道？



⑨ 野川



JR国分寺駅の近くにある湧水と、真姿の池・お鷹の道湧水群が集まって野川に注いでいるそう。

⑧ お鷹の道



国分寺崖線の下から湧き出る清水が小川になり、その脇にはのんびりとした雰囲気のお鷹の道が！ここ、ホントに東京！

お鷹の道

【参】 いえいえ、違います！江戸時代に御三家・尾張徳川家の御鷹場に指定されたためにこう呼ばれるようになりました。

⑦ 真姿の池



② 姿見の池



スタート地点はJR国分寺駅！



国分寺駅

9

国分寺街道

武蔵野で歴史のカケラ探し

今回のスタートはJR国分寺駅。東京都のほぼ中央に位置し、江戸時代以前の武蔵国の中心地・府中の北隣でした。まず向かったのは閑静な住宅街が広がる恋ヶ窪。素敵な地名だ〜と感心していたら、師匠曰く「恋ヶ窪は鯉ヶ窪とも書き、窪地で湧水が出る場所という意味もある。崩れやすい土地だから注意が必要だよ」ということを示しているんだ」とのこと。地名って面白い！

恋ヶ窪には古代の官道や中世の鎌倉街道が通り、宿場として賑わったそう。現在もその面影を感じることができなのが「姿見の池」で、宿場の遊女たちが自分の姿を水面に映したことがその名の由来なんだとか。畠山重忠と夙妻太夫の悲恋物語の舞台になったり、大岡昇平の『武蔵野夫人』にも登場する名所です。

ほかにも近くの東福寺に「傾城の墓」という夙妻太夫の供養墓があったり、町なかに街道の面影を残す切り通しがあったり。何気ない風景のなかに歴史のカケラを見つける喜びを感じました。

道は御路だった！

恋ヶ窪より少し高い場所にあ

遊女・夙妻太夫は、相思相愛の畠山重忠（源頼朝の家臣）が戦場で死んだという嘘を信じてしまい、悲嘆にくれてこの池に身を投げたとか。



【巻】 約3.5km離れたJR新小平駅で1991年に地下水が噴出する水没事故が発生。以後、駅一帯の地下伏流水を、池に導入するようになりました。

③ 東福寺・傾城の墓

東福寺には遊女たちの墓があり、そのかたわらには夙妻太夫の供養のために植えた松が。不思議と一葉に育ったのは太夫の一途な思いの表れ？



④ JR西国分寺駅東・東山道武蔵路発掘跡

（レプリカ 野外展示）

これが1300年前の御路！すり鉢状になって底に穴が開いているのは、斜面が雨水で侵食され、谷川状態になった証なんですって。

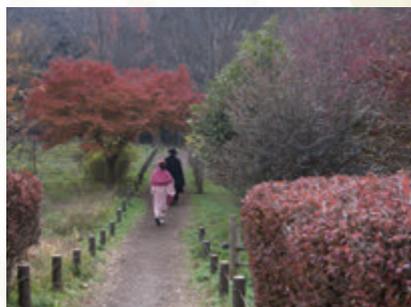


【巻】

中世に入って中央集権ではなく、使われなくなって廃れてしまった！赤土なので風化しやすかったんでしょうね。

⑤ 都立武蔵国分寺公園

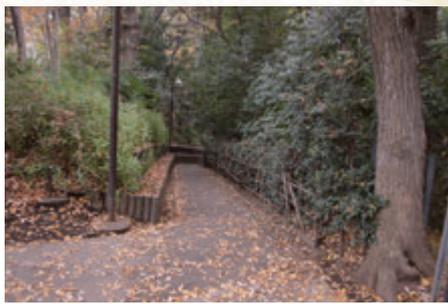
広々としていて、ブナやコナラの雑木林もあり、かつては木炭の原料の供給基地だったそう。お江戸の発展は武蔵野が支えていたんだ！



⑥ 国分寺崖線

i 東芝府中事業所
府中事業所内には、東芝エレベータの開発・製造拠点である府中工場があります。

病気で醜い顔になった玉造小町がこの池で身を清めたら治ったという伝説が。私も清めたい気持ちでぐっとこらえました。



公園の出口が急激な下り坂に！俗に「ハケ」と呼ばれている国分寺崖線を下ります。

今回の締めの一冊

そこからは前世となりぬ崖の水

【巻】

木枯らしや武蔵の御路のひとかけら



るJR西国分寺駅の近くには、古代の官道だった東山道武蔵野路発掘跡のレプリカが野外展示されています。かつては道路幅12mの直線道路が、国分寺市内を高低差関係なくまっすぐに縦断していたんだそう。そのスケール感に圧倒されていると、師匠が「道」というのは本来「御路」と書く、都と国府を結ぶ官道を指す言葉だったんだ。こういうまっすぐな道は強力な中央集権の証で、それを実現したのは古代と現代くらいだね」と解説してくれました。道の形が統治のパターンによって変化するなんて考えたこともなかったなあ。

奈良時代の中頃、この官道の近くに国分寺、国分尼寺が築かれ、宗教的聖地として発展しますが、周囲には武蔵野の大自然が広がっていました。その雰囲気は、都立武蔵国分寺公園のコナラやクヌギの雑木林と、全国名水百選に選定されたお鷹の道・真姿の池湧水群に今も色濃く残っています。

マイナスイオン充電完了！都内にいることを忘れてリフレッシュできた散策でした。

人生の節目にはシンディがいた

篠原ともえ

さん（マルチタレント）

バレエが変えた性格

篠原ともえさんにはたくさん顔がある。歌手、女優、衣裳デザイナーなどに加え、天文宇宙検定3級の資格を持つ宙ガールとして、天文ラジオ番組のパーソナリティも務めている。今回は、そんな多方面で活躍中の彼女に、特別な存在であるというシンディ・ローパーとの思い出を聞いた。

小さい頃は、おとなしい性格で、引つ込み思案だった篠原さん。彼女を変えたのは、小学4年生で習い始めたバレエだった。発表会で先生を選んだ曲は、シンディが歌う「ガールズ・ジャスト・ワナ・ハヴ・ファン」。ポップな曲に乗り、舞台でスポットライトを浴びた瞬間、彼女は変身した。以来、人前に出るのが楽しくなったのだ。

服づくりに興味があった篠原さんは高校・大学と服飾デザイナーの道を選んだ。一方で芸能

界に憧れ、16歳で歌手デビューも果たした。プロデューサーしてくれたのはテクノミュージシャンの石野卓球さん。

その頃、石野さんが「きつと君は好きだと思おうよ」とプレゼントしてくれたのがシンディのアルバム『シーズ・ソー・アンユー・ジュアル』だった。アルバムには「ガールズ・ジャスト・ワナ・ハヴ・ファン」も入っていた。

「あつ、これバレエで踊った曲だ！つて、驚いたんです。それまでシンディのことはほとんど知らなくて。アルバムは私の感性にピッタリで、歌手の先輩として目指せる方ができたと思いました」

シンディと

同ジステージに

2006年、篠原さんがロックフェスティバルで来日したシンディを見に行くと、思わぬ

出合いが待っていた。ステージ上で「ガールズ・ジャスト……」が始まった時、篠原さんの身体は、ひとりで踊り出していた。すると、それを見たシンディが、舞台から手招きしてくれたのだ。

「あれ、呼んでくれてる！つて思い、舞台に行つて、彼女と一緒に歌ったんです」

ステージ終了後、シンディから食事に誘われた。その頃、篠原さんはミュージカル『三文オペラ』のポリー役のオフアールを受けていた。歌う曲数も多く、難しい役づくりに悩んでいた時だった。シンディも『三文オペラ』でブロードウェイデビューを果たしていたので、篠原さんはシンディにそのことを相談した。

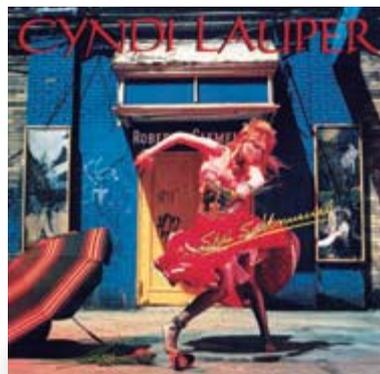
「そうしたら、抱きしめてくれて。心で演じればいいの。歌もお芝居も心よ！つて、励ましてくれたんです」

この言葉に勇気づけられて

1年間稽古を積み、その甲斐あつて『三文オペラ』は大成功。舞台に自信がついた。その後も、『表裏源内蛙合戦』の舞台を物怖じすることなく演じきつて、演出家の蜷川幸雄さんから褒められた。

東日本大震災の直後、来日コンサートをやキャンセルせず、チャリティイベントにしたシンディ。篠原さんが見に行くと、彼女を覚えていたシンディは再び抱きしめてくれた。

2013年には松任谷正隆さんのラジオ番組の出演がきっかけで、ユージミンのステージ衣裳をデザインした。人生の節目節目でシンディと出会っている篠原さんのことだ。シンディのステージ衣裳を、彼女がデザインするのも夢ではないのかもしれない。いつかシンディが、篠原デザインに身を包む日が訪れるのを楽しみに待つことにしたい。



『シーズ・ソー・アンユー・ジュアル』
アーティスト：シンディ・ローパー
品番：SICP-30179
価格：¥1,800+消費税
発売：ソニーミュージック・ジャパン
インターナショナル

アルバムについて

シンディ・ローパーが彼女のバンド「ブルーエンジェル」を解散後、1983年に初めてスタジオで録音したアルバム「マナー・チェンジズ・エヴリシング」。「タイム・アフター・タイム」など全10曲が収録されている。

収録曲のうち「ガールズ・ジャスト・ワナ・ハヴ・ファン」は、彼女のシングルヒット曲でもある。この曲は最初口パート・ハザードが男性の視点で書いたものだったが、シンディはハザードの許可を得て、女の子だつて楽しみたい、楽しくやりたいんだと女性の視点に替えて歌った。シンディ自身は、この曲には彼女の人生のいるいるな部分が詰まっていると自伝『トゥルー・カラーズ』で述べている。



しのはら・ともえ●1979年東京生まれ。高校時代に歌手としてデビュー。その奇抜なファッションは、同世代の女の子に共感を呼び、シノラブームを生んだ。その後も、マルチな才能を活かして活躍している。書籍『ザ・ワンピース 篠原ともえのソーイングBOOK』（文化出版局、1,620円）発売中。

かんはる 地方都市

第9回

愛媛県喜多郡内子町



町民と行政が協働して 自らの力で町づくりを実践

今回の
キーパーソン



愛媛県内子町長
稲本隆壽さん いなもと・たかとし

町づくりを進める際には、町の人々の力と町外の応援団を増やしていくことが必要です。内子町の場合はドイツと深いつながりを持ち、東京にあるドイツ大使館の方々などに何かと応援していただいています。しかし、最後に踏ん張らないといけないのは我々——つまり町の住民です。未来は自分たちの力で切り開く以外にありません。



内子町
ついでに
こんな
ところ

- 人口：1万8000人弱
- 面積：299.43km²
- 概要：松山市から南南西約40km、愛媛県のほぼ中央に位置。2005年、3町が合併して新「内子町」となる
- 特徴：町並みが観光資源として認識される前からその保存に取り組み、数多くの賞を受賞
- 特産品：ブドウ、桃、ナシ、和ろうそく、和紙

町民の意識を変えた 町並み保存活動

愛媛県内子町の八日市護国地区に一歩足を踏み入れると、まるで江戸時代か明治時代にタイムスリップした気分になる。ここは1982年、四国で初めて重要伝統的建造物群保存地区に選定され、現在では年間数十万人もの観光客が訪れる。

しかし、町並み保存活動が始まった約40年前は、訪れる人がほぼゼロで、古い建造物も老朽化していた。内子町長の稲本隆壽さんは、これまでの歴史を振り返ってこう語る。

「当時、活動に賛同する住民はごくわずかでしたが、熱心な住民と賛同した役場の職員は、住民を一人ずつ説得して了解をとりつけました。こうした地道な活動の積み重ね



TOPIC

内子町は、高齢化が進んだ小規模集落を支援するため、町営バス以外にデマンドバスを運営している。デマンドバスとは利用者の要望に応じて運行されるバスで、車両には小回りのきく10人乗りワンボックスカーを使っている。路線数は現在13あり、今後さらに充実していく予定だ。

で建造物の修復が進められるようになりました。活動は町民の意識を変え、自分の町に自信と誇りを持つようになりました」

町並み保存活動は、自分たちの住環境を改善する側面も持つ。それに気づいた町民と行政はその後、村並み、山並み保存へと活動の領域を広げていった。

知的農村塾の参加者の声に 押されて「からり」が誕生

内子町の町づくりでもうひとつ欠かせないのは、1986年に始まった知的農村塾だ。これは、自分たちに合った農業との向き合い方などを農民自身が考える学習会で、冬場の農閑期に開催される。その立ち上げに尽力したのが当時産業振



藤谷浩介の ここがポイント!

内子町は、地域振興の宝石箱のような町。美しい村里の数々も、本物の魅力溢れる伝統的町並みや芝居小屋も、地元産品に徹底的にこだわった道の駅も、地元民と役場が手を組んで、懸命に守り育ててきたものです。林業再生の今後にも大注目です!

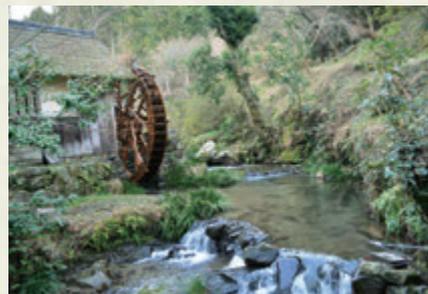
もたに・こうすけ ●日本総合研究所 主席研究員。日本の全市町村を訪問し、地域特性を多面的に把握。登壇・出演・寄稿等は年間1300件を超える。著書に『里山資本主義』『しなやかな日本列島のつくりかた』など。



八日市護国地区の町並み(左)。国の重要文化財に指定された建造物が3棟ある。出格子(でごうし)※2、鏝絵(こてえ) (下/※3)などの意匠が特徴。



※2: 外に突き出た格子。
※3: 漆喰を用いて、浮き彫りふう
に描かれたレリーフ。



村並み保存活動の一環で復元された石畳地区の水車。石畳地区の有志が必要な費用を出し合い、自らも汗を流して復元。



1916年に創建された木造芝居小屋「内子座」。一時は解体して駐車場にする案も浮上していたが、町並み保存活動の結果、その価値が見直され、1985年に修復。



2015年、国土交通省の全国モデル「道の駅」(計6カ所)の1つに選ばれた「からり」。特産物直売所では内子産しか扱わないというこだわりがあるため、敷地内に自動販売機はない。



レストランの人気メニュー「内子豚ハム・ソーセージ」(上)とパン工房でつくられたパン(右)。極力内子産の素材が使われたこだわりの一品。



特産物直売所に設置された端末。商品に添付されたバーコードをリーダーで読み取ると、生産者情報や栽培履歴情報を閲覧できるため、消費者は安心して商品を購入できる。



林業の六次産業化を目指す

そんな稲本さんが現在注力しているのは林業の再生である。内子

興課に所属した稲本さんだ。
「知的農村塾では、高次元農業」
——今でいう「農業の六次産業化」
が「※1」がビジョンとして提起されました。また、参加していた「おばちゃん」から、特産物直売所をやりたいたいという声が出てきました。道の駅「内子フレッシュパークからり」(以下、からり)は、こうした声を受けて開設されたのです」
「からり」は1996年、特産物直売所としてスタート。その後、レストラン、パン工房、燻製工房、農産加工場などが整備され、今では約450人が出荷し、年間約80万人が来場するスポットになった。
しかし、開設時は出荷生産者が約30人とどまり、来場者数も少なかった。初代支配人を務めた稲本さんは、その頃の苦勞をこう語る。
「当時は農産物を農協に出荷するのが当たり前の時代で、夜な夜な農家に通って『出荷してくれませんか?』と頼んで回りました。それに、立场上全体を見渡さなければなりませんから、従業員にきちんと給料を払えるか、毎月気がかりでした。朝8時に出社して家に帰るのは夜の11時か12時。稼ぐことがいかに大変か、身にしみてわかりましたね」



内子町では、林業にかかわる人材を育成するため、外部から講師を招いて体験学習会を開催している。写真は、間伐材の搬出方法を学ぶ体験学習会の1コマ。

町の面積の8割弱は山林が占めており、かつては林業も基幹産業のひとつだった。内子産材による公共施設の木造化や、木質バイオマスの利活用など、林業再生につながる取り組みを現在手がけているが、国産材の価格低迷などもあり、一筋縄ではいかないという。
「林業の六次産業化を進め、内子産材のブランド化を図れる林業専門の地域商社を立ち上げたい」と思っています。具体的には、内子産材でつくられた木工品を都市圏で販売したり、内子産材で家を建てたいと希望する人を増やしたりする仕組みをつくる。いわば「林業版のからり」です」
時間がかかる取り組みになるかもしれない。しかし、「未来は自分たちの力で切り開く」覚悟を持った内子町の人々なら、地道にひとつずつ形にしていくに違いない。
※1...生産だけでなく、加工、販売も手がけて生産物の付加価値を高めていく取り組み。

みかんの花道

【特定原材料】小麦、卵、乳製品



お取り寄せは、こちらから☎TEL: 089-984-8360

「これは、美味しい！」と食した誰もが発してしまふ……。それが今回の「みかんの花道」です。

7年前から愛媛県で行われている「えひめスイーツコンテスト」の2015年ギフト菓子部門で、見事グランプリを受賞したお菓子です。

この焼き菓子の製作者は、「ケーキ工房 あるもに」で働く大山裕恭さん。「5年前に妻の実家がある松山にきた時、地元

の農作物を使った新しいスイーツを募集するコンテストの広告を見て、応募したいと思ったんです。まずは生菓子部門に応募。2014年に「はなびより伊予の夏」という花火をイメージした作品で、グランプリを受賞し、次の目標としてチャレンジしたのが、今回の焼き菓子でした。

「サクッととしたクッキー生地とカリッとしたココナッツ生地を使用していますので、食感も、味も

2倍楽しめます。また、美柑王やネーブル、レモンのペーストが、生地に染み込まないように、薄いホワイトチョコを仕切りとしてサンドしました。チョコレートの甘さを考え、柑橘類のペーストは甘さを控えています」

みかんの花をイメージした見た目といい、繊細さがそこかしこに感じられます。

「お菓子づくりは、店の名『あるもに』(ハーモニーのフランス語)のように、ハーモニーが大切だと思います。これからも、ギリギリまで妥協しないで味の調和を追求していきたいと思っています」と語る大山さんの思いは、すでに世界へと向かっています。



ここがポイント

地元ならではのもぎたて柑橘類が味の決め手!

プロから、ひと言!



バターリッチな、サクサクのガレットです。でも伝統の焼き菓子にとどまらず、ココナッツや柑橘類の仕掛けがあって、口の中で絶妙なハーモニーが楽しめます。控えめなみかんの花のアイシングも愛らしくて、職人のきめ細かな心遣いやお菓子への愛情を感じますね。

料理研究家
フードコンサルタント
上村 泰子氏



かみむら・やすこ
フード・アイ代表。企業やレストランのフードコンサルタント、メニュー開発に長年従事し、新聞、雑誌、講演会などでも活躍。著書や監修本は60冊以上ある。簡単でヘルシーな料理提案と親しみやすい解説で人気を得ている。